

# 年頭ごあいさつ

## 明るい展望を描ける年に



舞鶴商工会議所  
会頭 小西 剛

明けましておめでとうございます。  
令和3年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、2月の「JMUの商船建造からの撤退」発表と、3月から本格化した「新型コロナによる災禍」によって、4月～6月の景況は調査以来の最悪を記録するなど、極めて厳しい経済状況が続きました。また、この間、東京五輪など各種イベントの中止が相次ぎ、45回の節目を迎えていた「みなと舞鶴ちゃったまつり」も開催を諦めざるを得ませんでした。皆様には大変なご心配とご迷惑をお掛けしました。

今年の経済についても、厳しい見方がされていますが、我々経済人は、どのような場面に遭遇しようとも、事業を継続・発展することが求められています。

JMUの商船建造からの撤退については、日本海側唯一の大型造船所の必要性和、国の方針に沿った洋上風力発電事業など、人材、技術、設備が活きる新分野への事業展開について、府・市と連携し、引き続き、国をはじめ関係機関に働きかけてまいります。

今、私たちは、コロナとの持久戦の中、アフターコロナを見据えた経営に取り組んでいかなければなりません。また、同時に、社会基盤の整備や企業誘致など、稼げるまちづくりへの取り組み、創業や事業承継、身の丈に合ったICTの活用、働き方改革への対応等々、生産性向上への取り組みが必要です。

舞鶴の活性化に直接つながる、道路や港湾、鉄道、治水対策などの基盤整備については、京都舞鶴港の機能強化や高速道路ネットワークとのアクセスに不可欠な臨港道路「上安久線」、国道27号西舞鶴道路の早期完成、さらには、舞鶴若狭自動車道舞鶴西～舞鶴東間

の4車線化優先整備区間への早期選定などの実現を働きかけてまいります。

また、昨年12月、高浜発電所1、2号機の再稼働について、舞鶴市議会に請願を行い採択いただきました。本市産業界は、高効率火力や原子力発電などの「ベースロード電源」を安全に維持管理する役割を果たしており、発電所の存在は、地元経済を大きく支えています。安全性が確認された発電所の稼働については、再生可能エネルギー推進のうえからも、現実的・合理的な選択であると思っております。引き続き、経済の成長を支え国民の生活を守るために、エネルギー政策が正しく実行されるように期待するものであります。

本年は、舞鶴商工会議所は創立から75年の節目です。商工会議所の創始者であり日本近代資本主義の父とされる渋沢栄一翁をモデルとしたNHK大河ドラマ「晴天を衝け」の放送が間もなく始まります。東京オリンピック・パラリンピックも開催への準備が進んでおり、「みなと舞鶴ちゃったまつり」についても実施できればと思っています。社会経済が大きく変容していく中、また、舞鶴の未曾有の経済危機の時において、引き続き、進取の気概を持ち、地域経済発展のため、国・府・市はもとより、関係者の皆さまとともに、何としましてもこの難局を乗り越え、明るい展望を描ける年にしたいと考えております。

本年も、舞鶴商工会議所に対しまして、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、舞鶴のさらなる発展と会員企業のご繁栄、並びに皆様方の益々のご健勝・ご多幸を心からお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。